

# 坂本龍一さんが苦闘した大腸がん

## リスクと対策

日本人で一番多いがんは大腸がんです。死亡数では、大腸がんは肺がんに次いで2位です。今年3月に音楽家の坂本龍一さんが、4月には3人組ロックバンド「空想委員会」のボーカル、三浦隆一さんが大腸がんで亡くなりました。一方で大腸がんはある程度予防でき、治りやすいがんでもあります。

大腸は、おなかの右下の盲腸に始まり時計回りにおなかを一周し、肛門までの2メートル弱の消化管です。肛門近くの20センチほどが直腸で、残りを結腸と言います。がんができる場所で直腸がんや結腸がんと呼びます。大腸がんは便が出る肛門近くに発生しやすく、直腸がんが全体の3割、その上のS状結腸のがんが3割を占めます。

大腸がんの原因はDNAに刻まれる遺伝子変異です。従って、年を取るほど大腸がんにかかりやすくなります。実際、日本人の男女とも年齢が高くなるほど、罹患（りかん）率（人口当たりの患者数）が高くなっています。

### ■高リスクの喫煙、飲酒、肥満

大腸がんは生活習慣と関係があります。喫煙、飲酒、肥満は大腸がんリスクを上げます。加工肉（ハムやソーセージなど）や赤肉もリスクを高めます。これらは直接遺伝子変異を促進させたり、大腸内に棲む細菌叢（そう、腸内フローラ）を変化（「悪玉菌」を増加）させたりし、発がんを促します。

一方、定期的な運動は大腸がんの予防に有効です。野菜など食物繊維は、腸内の細菌叢を良い方向に変化（「善玉菌」を増加）させ、大腸がんリスクを下げます。

大腸がんは、胃がんや膵（すい）がんに比べ予後が良く、早期発見で治すことのできるがんです。日本の「治る大腸がん」の治療成績は世界でもトップクラスです。

つまり、検診が重要です。しかし、日本は欧米に比べると、人口当たりの大腸がん死亡数が多くなっています。理由の一つは、日本人の検診受診率が約40%と欧米の80%以上に比べ低いことが指摘されています。

## ■ 早期発見で「治る」

大腸がん検診は、40歳以上が対象で年1回です。1次検診は便検査で体に負担はありません。まれに結果が「要精密検査」となると、2次検診で大腸内視鏡検査を受けます。最近ではこの検査も眠っている間に済みます。私も今年初め大腸内視鏡検査を受けましたが、痛みもなく、すぐに済みました。大腸内視鏡検査が難しい場合は他の検査（大腸CT検査など）を受けることもできます。

大腸がんは遺伝も関係し、近親者に大腸がんが多いとリスクが上がります。遺伝が関係する大腸がんは1割程度あるといわれています。こうした遺伝子が関係する大腸がんの一部に朗報があります。

70代女性が腹痛で受診しました。検査の結果、結腸がんでおなか全体に広がって手術ができません。ただ、がん細胞の遺伝子を調べると遺伝子の修復機構の一部が壊れた「MSI-H」と呼ばれる状態でした。

そこで、これに適応があるがん免疫を活性化する薬を投与すると3カ月でがんが消えてしまいました。1年間治療を続け、CTでも内視鏡でもがんが消え、薬を止めましたが、その後1年たっても再発はありません。

大腸がん検診を定期的に行くとともに、進行した大腸がんも診断されても、あきらめずにゲノムも調べましょう。